

令和5年度 江戸川区立松江小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	「かがやき」力いっぱい笑顔いっぱい松江の子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・明日登校するのが待ち遠しい学校 ・よく考える子・思いやりのある子・健康な子 ・子供たちの明日を考えた指導ができる教師
--------	-----------------------	----------------------------	----------------------------	---

前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ○問題解決学習や探究的な学習を基盤にした授業改善 ○体育の授業力向上と児童の体力向上へ向けた取組の強化 <課題> ○基礎・基本の定着や更なる学力向上 ○松江スタンダードを基にした指導の徹底
-------------------	--

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・6つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・改善・充実	・校内研究を算数とし、全員研究授業を行う。 ・年間の補習計画を立案し、計画的に実施する。 ・学力向上委員会で江戸川っ子study weekの在り方の検討をし、家庭での学習習慣を身に付ける。	・算数におけるCD層を20パーセント削減する。 ・CD層の学習に対する意欲を向上する。 ・江戸川っ子studyweekを児童全員が取り組む。	B	B	・C層の20%の削減は達成できたが、D層の削減が達成するのが難しかった。低学年でマスター検定などを通して学習内容を定着させた後、持続させることが課題である。 ・ipadを活用し、江戸川っ子studyweekを全児童が取り組むことができた。	B	・学力が低いことが気になる。意識調査からは勉強が嫌いなわけではないことがわかる。目的意識をもって勉強をしてほしい。 ・算数の習熟度別の学習が成果が出ることを期待している。	・学習に取り組む時間を日常的に習慣づける。 ・ipadを活用し、繰り返し練習したことが可視化できるようにする。
	体力の向上	・運動意欲の向上や健康の推進に向けた取組の実施・改善・充実	体力低下に歯止めを掛けられるように、休み時間の外遊びを充実させるとともに、日常的に運動に取り組めるように運動遊びを計画的に実施する。 マラソン、なわとびアタック、生活リズム向上週間、オリパラ掲示板の充実を図る。	体力調査において江戸川区の平均値を上回る。運動遊び年間35回、体力向上に向けた取組年間3回の実施を目指す。 マラソン・なわとび年間各4週間実施して体力向上を図る。	B	B	なわとびアタックやマラソンアタック、松江マラソンを実施し、目標をもたせることで達成感を味わわせることができた。 生活リズム向上週間を行い、生活習慣の見直しを行うことができた。	B	・なわとびアタックやマラソンアタック、松江マラソンは昔(評議員の方が松江小に在籍していた頃)から行われている行事であり、意欲をもって取り組んでいる児童が多かった。引き続き行い、体力向上につなげてほしい。	マラソンアタックや松江マラソンは来年度も行う。なわとびは「江戸川っ子なわとびチャレンジウィーク」と関連させ、年3回行う。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	学校図書館の利用を、意図的・計画的に行い、探究的な学習ができるようにする。	毎週の利用予定を作成し、全学級が定期的に利用できるようにしていく。 探究的な学習を全学年、学期に1回行う。	A	A	読書科を生かした探究的な学習を行い、全クラスで発表などを行うことができた。	B	・本を読むことが読む力を伸ばし、理解力を向上する。また、人の気持ちを汲み取り、コミュニケーション能力につながるから読書をする習慣を身に付けてほしい。	・学校公開で行うことで、保護者に周知する。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・適宜、校内委員会を設置し、情報共有を図る。また、ユニバーサルデザインを取り入れ、教室環境を10月までに確実に徹底する。 ・エンカレッジルームの活用表を作成し、計画的な活用を目指すとともに、特別支援コーディネーターのリーダーシップで効果的に活用する。 ・特別支援コーディネーターや研究副主任を中心に副籍交流や交流及び共同学習の充実を図る。	・年1回、教員がわかば学級で1日研修を行い、配慮の必要な児童への対応の仕方を学ぶ。 ・エンカレッジルームを活用し、配慮の必要な児童の安心できる居場所を確保する。 ・年に1度、副籍交流や交流及び共同学習を行う。	A	A	・通常学級の全教員が特別支援学級で1日研修を行い、インクルーシブ教育について学び、自己の指導に役立てることができた。また、児童理解ができ、補教などでもかかわれるようになった。 ・特別支援コーディネーターを中心にエンカレッジルームの有効な活用方法を共通理解することができた。 ・副籍交流を年に3回行えた。また、交流及び共同学習は学年によって回数は違うが、全学年行えた。	A	・特別支援学級併設校の利点を今後も生かしてほしい。 ・今後どのように生きていくかを自分で考えられる児童を養ってほしい。	・研修をもとに各クラスでユニバーサルデザインを取り入れた教育を行っていく。 ・副籍交流や交流及び共同学習が効果的にいけるよう、年度当初に意図的に計画を立てる。

	子どもたちの健全育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの健全育成に向けた取組</li> <li>不登校対策の充実</li> <li>教育相談の強化</li> <li>hupaer-QUの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年、アンケート 全員面接を実施する。</li> <li>登校に不安のある児童を関係諸機関に全員つなげる。</li> <li>必要に応じてケース会議を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任やSCによるアンケート、面接を7月に児童100パーセント行う。</li> <li>いじめ防止対策委員会を年3回行う。</li> <li>毎週金曜日に全職員での共有を図る。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校の児童を全員児童相談所やSSWにつなげることができた。また、オンラインでつながり、安否確認や学びの保障を行うことができた。</li> <li>いじめに関するアンケートを行い、必要に応じて児童と面接を行ったり、情報を共有したりした。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達とのかかわり方で悩んでいる話を聞く。一人になりたくないという思いから我慢をしているようである。子供の話をよく聞き、寄り添って行く必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、担任からの電話連絡と家庭訪問を行い、学校とのつながりを切れないようにする。</li> </ul>
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭、地域にHP、学校だより等を活用して、教育活動を発信する。</li> <li>学校公開の周知、徹底を行い、教育活動を伝える機会とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPは各学年週に1回。学校だよりは月に1回、家庭や地域に向けて発信する。</li> <li>年3回学校公開を行い、全家庭の参観を目指す。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPに掲載する学年に偏りがある。学校だよりは月に1回発行できた。</li> <li>学校公開を制限なく行うことができ、家庭だけでなく地域の方にも教育活動を伝えることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開などを見ると、学校が努力していることがわかる。公開で教育活動を見ることができるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HP等で教育活動を周知し、学校への理解を深めてもらう。</li> <li>学校公開を教育活動を知ってもらうよい機会とし、児童の良さが伝わる内容を展開する。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評議員会で学校経営方針や教育活動について理解を深める。</li> <li>課題を把握するため、学校アンケートを活用し、改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年に3回、学校評議員会を行う。</li> <li>年に1回、児童や保護者地域にアンケートをお願いする。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評議員会を行い、経営方針の説明をしたり、教育活動を見ていただいたりすることができた。</li> <li>年3回の共有アンケートを通して、保護者の意見を教育活動に生かすことができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校と家庭、地域が意見交換会等を行い、意見の相違の差を縮めて行く必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>評議員に説明し、協力を仰ぐことで教育活動を円滑に進められるようにする。</li> <li>来年度も共有アンケートを行い、保護者の意見を参考にする。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>情報を共有する。</li> <li>有効な手立ての検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月に1回、児童相談所やSSWとの情報共有を行う。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童相談所もSSWも電話だけではなく、ケース会議を行うなどして情報共有を密に行うことができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人を育てるのにいろいろな人とかかわりながら育ててほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、児童相談所やSSWと連携を図っていく。</li> </ul>
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>一斉退勤日には会議を入れず、定時に帰ることのできる環境を整える。</li> <li>SSS等を活用し、効率化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月に1回、一斉退勤日を設ける。</li> <li>出退勤システムを活用し、超過勤務時間月80時間以上を0名にする。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>一斉退勤日を月に1回設け、全職員が定時退勤することができた。</li> <li>月80時間以上の超過勤務をしている教員は0名である。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>昔ほど夜遅くまで校舎の電気がついていいることがなくなったように感じる。</li> <li>月80時間以上の超過勤務をしている教員は0名である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時退勤日は必ず退勤をする、超過勤務を少なくするなど意識を今後も継続させる。</li> </ul>